



名和三幹竹

名和 三幹竹（なわ さんかんちく）

河北町名誉町民 昭和 50 年 6 月 20 日顕彰

本名を香宝と言い、明治 25 年（1892）に谷地村岡前（現河北町谷地）の安楽寺の長男として生まれました。

明治 41 年（1908）5 月、東北行脚の大谷句仏上人が安楽寺に寄った折、俳句に興を示した若い香宝に文才を感じたので、京都遊学を勧められ、真宗京都中学（現大谷高校）に入学しました。19 歳の時、碎花の俳号で作句を始め、後に三幹竹と改号し「懸葵」や河東碧梧桐の「日本俳句」に投句しました。大正 2 年（1913）には大谷大学に入学し、24 歳の時「懸葵」の編集者・雑詠選者となりました。大正 10 年「乙字句集」を編集しました。

昭和 7 年（1932）10 月安楽寺の住職を拝命しました。翌年の暮れ、母が死亡し、父も病床に就いたので、昭和 9 年 1 月やむなく京都を離れて谷地に帰郷しました。10 月には「懸葵」の編集所を山形に移し、最終刊まで編集者と選者を全うしました。また、改造社版「俳句三代集」を句仏の代選で刊行しました。

戦後「銀嶺」を創刊し、休刊まで選者を続け、「ひまわり」が創刊されるやその選者になるなど多くの活躍が認められ、昭和 42 年（1967）、斎藤茂吉文化賞を受賞しました。ひまわり句会は「三幹竹句集」を出版し、安楽寺の境内に離洛留別の句碑を建立しました。これは谷地雛祭りで見物の穴場です。